

質問内容	回答
<p>農産物直売所マップはもらった人しか見れないので、広く多くの人にわかるようになると優しいのではないかな。</p>	<p>なるべくあちこちに皆さんが見れるような場所に配布したいと思うが、紙媒体で全員に周知するのは不可能なので、まずはPDF化して市ホームページに掲載したい。今後の配布先、掲示方法なども工夫しながら、なるべく皆さんの目に触れるような形を考えていきたい。</p>
<p>写真をとってきたのでご覧いただきたい。①は松の台通りの坂で、これは雪が降ったり雨で濡れて凍ったりしたら老人はなかなか通れない場所で、前に手すりでもつけてほしいと提案したが、場所がないからつけられないと言われた。②の写真は排水口のへりに防護策がたっている。下の方も排水口のへりならばたつのではないかな。③の写真は、三沢川に名無しの橋を自治会にかけていただいたが、その手前が雨が降るとすぐ水がたまって通るのに苦労する。排水口をつけるとか砂利をまくなどして通れるようにしてもらいたい。</p>	<p>松の台通りにつきましては、一部の区間において、勾配がきつい所がありますが、道路の構造に関する基準により、歩車道の区分の無い道路におきまして、現道内に手すりを設置することは、困難でございます。一方、三沢川の無名橋手前にできる水たまりにつきましては、現地を確認しまして、水たまりができないよう排水路を造る等の対処をしております。</p>
<p>尾根幹線北側の川北下地区にため池がほしい。昭和40年ごろの当初計画では、みずほ銀行から向陽台に向かう右側の現在「分譲します」との看板が出ている場所にため池を作る計画だったようだが、坂浜の扇橋付近に分水路ができ、そこから多摩川に排水ができるようになったので、ため池は作らないことになったと聞いた。ただ、現在雨が降るとガストの北側やきづめ広場付近は水がたまり大変なことになる。分譲されないうちに、川北下地区にため池を作ってほしい。</p>	<p>申し出の川北下地区は、丘陵地帯に挟まれた低傾斜の住宅地となっており、近年のいわゆる都市型豪雨時に当該地付近では道路上を流れる雨水が集まりやすい傾向にあります。ニュータウン事業では、三沢川分水路をはじめ各種雨水対策を実施し、また 尾根幹線を造るときにも集水マスや横断側溝などを増設した経過もありますので、向陽台1-4番地付近にため池(調整池)はつくらないこととなっております。今後も強雨時の状況を見て、市道の排水施設の充実に努めるとともに、あわせて尾根幹線管理者である東京都にも同様の対策をお願いしてまいります。</p>
<p>あかさか道(松の台通り)の理容店のある道が非常に狭くなっているので、減速等の印を路面に表示していただきたい。</p>	<p>ご提案をいただきましたあかさか道(松の台通り)の路面に減速等の印を路面表示することにつきましては、交通管理者であります多摩中央警察署と協議し、実施してまいりたいと考えております。</p>
<p>先日、大掛かりな防災訓練があったが、その話が末端まで行き届いているかどうか気になった。自主防災はあるが機能しているように思えないし、消防署や自治会との話はできているのか。会場では座る場所もなく、誘導する人もいなかったのだから、「どこに集まったらいいか」などもう少し私たち末端にも行き渡るような話があってもいいと思う。</p>	<p>消防署・市役所では人数が限られているため、自助・共助・公助の考えを整理し、稲城市でも自主防災組織が組織された。市内全箇所に設立され、市内の97%をカバーしている。地域防災訓練も、現在はそれぞれの会場ごとに自主防災組織が主体となっていて、消防本部がそれを手伝う形式になっているため、広報や連絡が行き渡っていない点はご理解いただきたい。訓練の内容もより実践的なもので、「ブラインド訓練」という事前に想定を知らせておかないやり方である。知らされていないということについては、次回に向けて地域ごとにお話していただきたい。</p>

<p>訓練は、実際地震が起きたときを想定し条件反射でやるべきものだと思うが、そうっていない。市が提供する避難場所・避難所へ逃げてくださということで、自主防災組織の関係が全くわからない。自主防災組織をもっと有機的に使って、実際の災害時に市民が安心して逃げられるように情報提供とか訓練をしてほしい。</p>	<p>自主防災組織は皆さんが主体、となり近所で助け合うという共助なので、ぜひ自主的に参加し隊員として日頃の点検・訓練に励んでいただければと思う。それぞれの自治会ごとに組織ができていて、年に一回は自主防災組織の自主点検で、防災倉庫の資機材の使い方の確認や点検をお願いしている。いざというときに皆さんで自助でやっていただけるようお願いしている。</p>
<p>小中学校でのイジメの問題について、大体の教育委員会はイジメはなかったというが稲城はどうなのか。</p>	<p>8月あたりに文部科学省から全国的にイジメの実態調査があったが、稲城市教育委員会ではこれ以前に、大なり小なりイジメはあるという前提で、その上でそれを包み隠さずに取り組んでいる。各学校全校にイジメはあったが、イジメの定義は難しく、また「イジメを受けたか」のアンケートに対し「受けた」という自己申告を集めたものなので、個別に細かく調査をしてみなければわからないものも含まれているかもしれない。しかしその一つ一つを丁寧に、各校の校長をはじめ教員とともに対応していく。</p>
<p>生活保護受給者の中に規定を外れた交付を受けていると者がいるといった問題、稲城はそのあたりの内容をどの程度まで調査・確認し、今後はどう調査していくか。</p>	<p>生活保護については機械的に処理しているのではなく、個々の家庭状況など詳しく調査したうえでそれぞれの担当のケースワーカーが対応し、実際の受給が決まったあとも丁寧に、1軒1軒まわって、なるべく生活保護から就労に導けるような指導もしながらやっている。今後も不正受給を根絶できるように取り組んでいきたい。</p>
<p>防災無線が百村では聞き取れない。地域的なものかもしれないが、改善の仕方など考えをお聞きしたい。</p>	<p>防災行政無線については、将来的にもこれで全てをお伝えするのは無理だと考えている。この補完として、メール配信サービスを行っているのでぜひ登録していただきたい。また今年度取り組んでいるのが、利用者が携帯端末を操作・登録をしなくても、一方的に強制的に情報が流れてきて受け取れるエリアメールというシステムで、3社（au、ソフトバンク、NTTドコモ）と稲城市が契約して、有事の際には稲城市で送りたい情報をエリアメールで送れることになっている。様々な情報連絡手段を整備しつつあるが、防災行政無線は近い将来デジタル化し、これにより明瞭な音になると思うが、それまでのご理解ご協力をお願いしたい。</p>
<p>尾根幹線の真ん中が空いているので、車線を増やしてほしい。また、災害時、電気やガスなどが止まってしまったときには太陽光発電は有効だと思うのだが、国や都には補助金制度があるが市ではどうなのか。</p>	<p>尾根幹線は都道であるが、今の尾根幹線は仮の側道で、将来的には真ん中に本線が引けるという計画だったが、周辺人口動向や景気動向などにより、本線の計画が凍結されたままになっている。今後とも本線を要望していきたい。 太陽光発電の補助については、現在は固定買取制度があり、約10年で元が取れる状況なので、コストの問題は解決されたと判断し、稲城市単独での補助は考えてこなかったが、来年度以降に向けて、太陽光パネルだけではなく、例えばエネファームや間伐材を使ったペレット事業などに包括的に補助ができるような制度を検討していきたい。</p>